

皆様、あけましておめでとうございます。年頭にあたり、本年が町民皆様にとって、健康で明るく、希望に満ちた年になりますようお祈り申し上げます。

さて、昨年は、山木屋地区を除く町内の除染作業がほぼ終了し、役場新庁舎や復興公営住宅の建設着工、西部工業団地の造成、さらには、羽田産業団地に新たに立地された企業の操業開始など、町の復興はもちろん、進化する「かわまた」の基本となる数多くの事業が、目に見える形となってきた年でありました。

しかし、東日本大震災、原発事故から間もなく5年が経過しようとしている今もなお、山木屋地区の皆様は、住み慣れた故郷を離れ、避難生活を余儀なくされております。

山木屋地区では、昨年8月末から準備宿泊が開始されたところであり、町では、井戸の掘削を始め、商業施設整備に向けた取



復興から発展へ 進化するかわまたの実現

組みなど、復興事業をさらに加速させ、山木屋地区の皆様のご郷への早期帰還を目指してまいります。

また、昨年は関東・東北豪雨により川俣町に大きな被害が生じた年でもありませんでした。

この豪雨による町全体の被害は600件を超え、貴重な財産を奪い、生活をおびやかす自然の猛威を目の当たりにしました。

そのような中、町といたしましても、町道や農道を始め、宅地、農地の復旧に向けた支援等に努めてきたところであり、引き続き、被害にあわれた皆様の安全・安心な生活を守るための災害復旧事業に取り組んでまいります。

さて、本年は、国の地方創

ご挨拶

町民の皆様へ、
謹んで新年のごあいさつを
申し上げます。

生が本格的に始動していく年となります。川俣町においても「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を進めており、地域創生に全力を尽くしてまいります。総合戦略では、基本目標として、

1. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

2. 川俣町への新しいひとの流れをつくる

3. 川俣町における魅力ある雇用を創出する

4. 活力があり安心な暮らしを守るまちづくりを掲げ、この目標の実現に向けた取組みを具体的に実践していくことで、町が抱える人口減少、少子高齢化等の課題解決に努めてまいります。

川俣町には、元気いっぱいな子どもたちが数多くおられます。そんな子どもたちに、明るい未来を託すため、本年も全身全霊を尽くし、町政に取り組んでまいりますので、皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、私事ではございますが、現在病氣療養中のため、町民皆様に大変なご心配をおかけしておりますことに、心よりおわび申し上げます。療養に専念し、1日も早い町政への復帰を目指しておりますので、町民皆様におかれましては、ご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

※ 町では 12 月 9 日から副町長を町長職務代理者としております。

あけましておめでとーございます。

皆様方には、お健やかに新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、議会議員の定数が16人から12人となり、はじめての議員選挙が行われ、臨時議会において私が議長に選出されました。町民の代表議決機関の議長として責任の重さを痛感しております。

さて、東日本大震災、原発事故から5年になるうとしていますが、今なお山木屋地区の皆様が避難生活を余儀なくされていることは心痛の極みであります。皆様が将来に希望を持ち、1日も早い生活再建を図るためには、この1～2年が大きな転機と考えております。集中復興期間が1つの区切りを迎えておりますが、

町民福祉の向上と 開かれた議会を目指して

復興事業が着実に前進し、復興が成し遂げられるよう、議会として町当局をはじめ、国、県へ積極的に発言、提言してまいります。

また、時代に遅れることなく、川俣町の将来像を創造することは大切であります。少子高齢化社会は平成35年がピークであるとして示されておりますが、このことを熟慮し、適切に対策対応するため、議会としてなにをなすべきか議論することは重要なことであります。

町議会といたしましては、開かれた議会、より身近な議会となるようさまざまな改革に取り組み、本町の将来を見据え

川俣町議会議長

斎藤 博美

平成 28 年

新 年 の

みんぞつる
元気いぼ
笑顔
いっばい
かわまた

四

ながら、町民の付託に応えられる議会となるよう全力で取り組んでまいりますので、皆様方には、温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様にとりまして、本年が希望に満ちた1年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。

第5次川俣町振興計画のキャッチフレーズ